

ヘンリー・フォールズ『ニッポン滞在の9年間
-日本の生活と仕来りの概観』 [第13章]

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学教養論集刊行会 公開日: 2021-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長尾, 史郎, 高畑, 美代子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22059

ヘンリー・フォールズ

『Nippon 滞在の9年間—日本の生活と仕来りの概観』

[第13章]

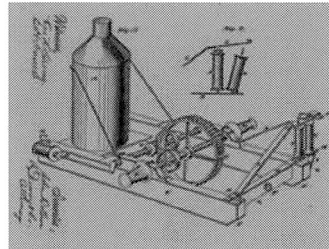
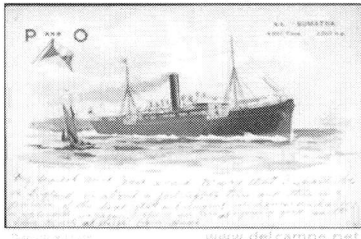
長尾史郎
高畑美代子

第13章 長崎と〔瀬戸〕内海

それは十月のある夜も更けてのことだったが、P&O¹の汽船「スマトラ」²の補助エンジンの唸り続ける騒々しい音が止み、横浜港から滑り出て、知り合いの見慣れた顔を照らしている^{かす}微かな赤い光がチカチカ光る、薄暗い断崖を通り過ぎ、灰色のジャンクの間を通り抜け、文明化された船なら義務づけ

1 P&O (ピーアンドオー、Peninsular and Oriental Steam Navigation Company、ペンインシュラ アンド オリエンタル スチーム ナビゲーション カンパニー) — イギリスの船舶会社。[<https://ja.wikipedia.org/wiki/P%26O>]

2 ss SUMATRA—建造：Alexander Stephen & Sons Glasgow；登録港：ロンドン；推力：蒸気、3気筒 (triple expansion)、馬力：2,200 ihp、11 ノット；進水：25/06/1895；貨客船；トン数：4607 grt、船長：400 フィート、船幅：46 フィート；喫水：25.7 フィート；座礁：24/04/1923 [http://www.clydesite.co.uk/clydebuilt/viewship.asp?id=3437；拙訳] (右図：donkey-engine)



[https://www.google.co.jp/search?q=SS+%22Sumatra%22&hl=ja&rlz=1T4GGLL_jaJP393JP394&tbm=isch&imgil=zjr02rCvrMH0M%253A%253B3p6ovdxc6f6XM%253Bhttp%25253A%25252F%25252Fwww.delcampe.net%25252Fpage%25252Fitem%25252Ffid%25252C157688258%25252Cvar%25252CSTEAMSHIP-SS-Sumatra-and-O-c1905-Postcard%25252C%25252CE.html&source=iu&pf=m&fir=zjr02rCvrMH0M%253A%25252Cs3p6ovdxc6f6XM%25252C_&usq=__kbuo9WnNPq3wNrsOqaP3EpuMkY%3D&biw=1191&bih=715&ved=0ahUKewjEr8azzYXMAhYQ8mMKHctbAbsQyjcIRA&ei=0hQLV8R400SP-A&ec39gP#imgrec=zjr02rCvrMH0M%3A]

られているように³ 舷灯・マスト灯を光らせて、滑らかな黒曜石の海を切り裂き、灯台⁴の通過点に来了。江戸湾の入り口で、白い燐光のさざ波が輝きだし、優良な汽船は揺れ出し、私はあわて気味に粗末なハンモックに上ったのだった。

朝が開けたのは——ただただ濃い藍色の荒れてうねり盛り上がる海の上で——昇るに苦勞する太陽もなく、その波の白冠を通して大きな鯉が我々の脇を楽しそうに、まるで郵便馬車に伴走する子供たちのように跳びはねていた。このすばらしく大きなサバのとてつもない量が東京市場に送られ、良い値で売られる。東京人は帝国全体を通じて、生では食べられない（極めて急

3 夜間航行安全のため、1848年に、イギリスで、蒸気船の舷側に赤色と緑色の舷灯、マストに白色のマスト灯を設置することを義務付ける法律が可決された。

4 釧埼灯台と思われる。釧埼灯台の前に江戸湾から浦賀水道のである地点に観音崎灯台(1868年点灯、フランスから送って来た第3等不動灯でフランス人技師団の監督下で設置)があるが、フォールズが江戸湾の入口といていることから浦賀水道を含む江戸湾の入口に当たる釧埼灯台のことであろう。この石造りの灯台を設計したのはフォールズと同郷スコットランド出身のリチャード・ブラントン(Richard Henry Brunton)で、1871(明治4)年に初点灯した。フォールズとブラントンは来日時に重なる部分があり、フォールズと会ったことがあると考える。なぜなら東京で初めて会いに来たのは工部大学のダイア—校長であり、スコットランド出身の工部省お雇外国人たちと楽しい時を過ごしたと書いているのである。ブラントンは工部省燈台寮に属していた。また、フォールズがブラントンの設計した灯台を熟知していることは本章に次々出てくる灯台の記述でも分る。

日本の灯台建設は1866(慶応2)年に米英仏蘭と江戸で調印した関税率を改定した改税条約(江戸条約)の第11条に「日本政府は外国交易の為開きたる各港最寄船船の出入安全のため燈明台浮木瀬印木等を備ふべし」とあり、幕府は観音崎、釧埼、野島崎、神子元島、樫野埼、潮岬、伊王島、佐多岬の8灯台の築造を約束したことから始まった。

ブラントンは1868年に来日した政府の灯台建設技師長である。ブラントンは1868年の来日以来、1870年の樫野埼灯台を手始めに、8つある条約灯台中6カ所(樫野埼、神子元島、潮岬、釧埼、伊王島、佐多岬)の灯台を作った。これらの灯台は1871年11月までに点灯している。但し潮岬灯台は70年仮点灯、73年本点灯。

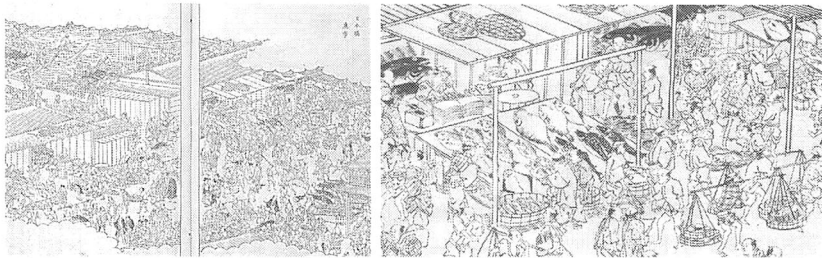
1879年までの滞在期間に日本東端の納沙布岬、青森県の尻屋崎、静岡県石廊崎、御前崎など北海道から九州まで全国26の灯台、5カ所の灯竿、2艘の灯船を作った。(参考 Richard Henry Brunton, *The Japan Light*, 徳力真太郎訳『日本の灯台』、付与された論評には、ブラントンの地震と瀬戸内海の特異性を考慮に入れたことが記されている)

速に腐敗する) 魚好きで有名でさえある。だからそれは警告に値するほど「高い」ときに売られ、暑い日に「日本橋の」魚市場⁵を——そんな日は、供給は需要よりちょっとばかり多いので——通り抜けるのはあまり気分のいいものではない。

やがて美しくも野性的で岩だらけの紀伊の海岸——我々の北東にあった——を離れた。谷合はかなりの人が住んでいると言われているが、しかし居住の兆候は見届けられなかった。山々はこんもりと茂り、あまり耕作されていない土地が目に入った。人々は実際のところ、主に林業と漁労に従事している。

Great Sea-serpent
竜——どこかこのあたりで、かつて発見され真正銘それだと立証されたという怪物——のことはさておき、鯨は独特の仕方^{ついで}で捕獲される。多くの小舟が対になって長くゆったりとした網を持って出港し、それらの網が怪物の周りに一つ一つ織り囲まれ、幾らか私が見た蜘蛛が招かれざる蜂を捉える様に似て⁶、ついに鯨がしつこく食い下がるのと、虐待者たちから逃げ

5 日本橋魚市場



江戸名所図会、巻1 斎藤幸雄 編[他] 吉川弘文館(国立国会図書館) 右は拡大図

6 かつては弓矢や突取などの方法で捕鯨は行なわれてきた。しかし17世紀後半より紀伊の国で鰯網鯨にヒントを得た網取法が行なわれ各地へ伝わるようになる。… 享保10年(1725年) 豊屋又左衛門は妻の一族であった田中氏とともに生月島館浦[長崎県]にて突取法の捕鯨に乗り出す。しかし思うような成果をあげることが出来ず田中氏は離脱、益富氏は紀伊や土佐で行われていた網追い捕鯨に独自の発想を加えついに成果をあげること成功した。(一説によると又左衛門が経営難から岸壁より自殺しようとしたところを一頭の牛がそれを助けた。そのときふと見上げると蜘蛛が網を張り獲物を捕らえる姿を見て捕鯨法を思い付いたとありこの逸話に基づき益富氏の家紋は牛の角をかたどっている)。約1割7分の成功率であったとのことである。そして寛延2年(1749年)

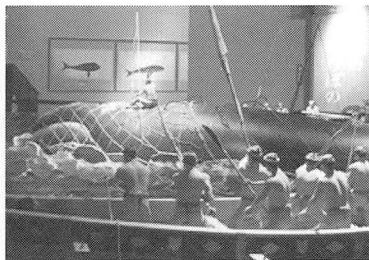
ようとする無駄な試みとでかなり疲労困憊し、まふと彼らの銚と長刀のたやすい餌食となってしまうのだ。梶野埼^{Cape Kashi}⁷に、素晴らしい第二等 回転光式の灯台があり、それは18マイル離れても目視できる。そして、潮岬^{Shiwomi Cape}には第一等の固定灯台があり⁹、他方、もっと小さいのが或る島に据えられ¹⁰、

左衛門の死後、松浦氏より益富の姓を受けることとなる。[<http://www53.tok2.com/home/nasubi/history/hoge/old/index.html>]

[網取法] その後、網で捕るようになりました。網で捕るようになってから、捕獲数は飛躍的に増加しました。まず、鯨に網をかけます。網をかけられると、鯨は、泳ぐ速度が遅くなります。そこに、たくさんの銚（もり）を打ち込んで、鯨を弱らせます。弱ったのを、見計らって、鯨の背中に飛び乗り、頭に穴を開けて、網を通して、くります。しばらくしてから、今度は、潜って行って、鯨の下側にまわって、とどめに心臓を突き刺します。このような仕事は、普通の漁師にはとてもできません。これを、専門にやっていたのが、次の章でのべる、刃刺（はざし）と、呼ばれている専門家の集団でした。



[捕鯨 網 - Bing images]



[島の館・捕鯨 平戸市]

7 梶野埼灯台（かしのざきとうだい）——和歌山県東牟婁郡串本町沖の紀伊大島の東端断崖に建つ灯台。…「日本の灯台の父」と呼ばれるリチャード・ヘンリー・ブラントンが日本で最初に設計し、1870年7月8日（明治3年6月10日）に初点灯（仮点灯）した日本最初の石造灯台。日本最初の回転式閃光灯台でもあり、その初期の建物が現存している。エルトゥール号遭難（1890年9月16日）の場所としても知られる梶野埼に建つ白亜の無人灯台。



[梶野埼灯台 - Bing images]



[梶野埼灯台 - Bing images]



[潮岬灯台 - Bing images]

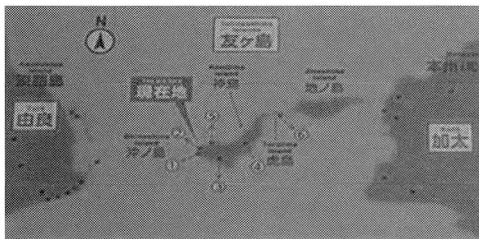
難しい航路が今では——そう信じるが——全時間帯に実際に航行可能になっている。

この地点から長崎まではひとつの多様性溢れる感動的な美のパノラマである——とは言っても景観という点では他に類をみないとしかいいようがない。ただ一つ言えることがあるとすれば、単に地域という点に関してだが、おそらく兵庫^{Hiogo}は、東京と北部、そして外国人の首都圏外居住者を結ぶ港の主

8 灯台で使用しているレンズには、いちばん大きい1等から順に6等までと、6等より小さい等外という等級があり、レンズの焦点距離の長さによって格付けされたもので、日本の中・大型灯台で使用されている灯台レンズの大きさを表す。一番大きなレンズを使用している灯台が第1等灯台と呼ばれている。…日本で最初の第1等灯台は野島埼灯台（洋式灯台としては2番目に、1870年1月22日に初点灯）であった。野島埼灯台ではフランス製の第1等フレネル式不動レンズを使用していたが、現在では第2等フレネル式閃光レンズに変わっている。[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AC%AC1%E7%AD%89%E7%81%AF%E5%8F%B0#cite_note-1]

9 潮岬灯台（しおのみさきとうだい）——紀伊半島南端の和歌山県東牟婁郡串本町にある太平洋に突き出た潮岬に建つ白亜の灯台。この灯台は明治初期の江戸条約によって建設された8基の洋式灯台（条約灯台）の一つで、歴史的・文化的価値が高いAランクの保存灯台に指定されているほか、「日本の灯台50選」にも選ばれている。幕末の1866年（慶応2年）5月、アメリカ、イギリス、フランス、オランダの4ヶ国と結んだ「改税条約」（別名「江戸条約」）によって建設することを約束した8ヶ所の灯台（観音埼、野島埼、檜野埼、神子元島、颯埼、伊王島、佐多岬、潮岬）の一つで、日本の「灯台の父」と呼ばれるリチャード・ヘンリー・ブラントンが設計・指導して1869年（明治2年）年4月に檜野埼灯台と共に着工し、檜野埼灯台と同じ1870年7月8日に仮点灯したが本点灯（初点灯）は1873年9月15日となった。（参考 Richard Henry Brunton, The Japan Light, 徳力真太郎訳『日本の灯台』）[図：注7右]

10 友ヶ島灯台：和歌山県和歌山市加太沖の紀淡海峡の群島「友ヶ島」の沖ノ島〔下地図中央の島①〕にある灯台で、前二基と同じくブラントンが建てた。1872（明治5）年初点灯の大阪条約による灯台でイギリス製の3等不動レンズ、石油重心ランプを使用。



幹線として考案された西の起点ではないかということだ。鉄道は既に内陸の旧首都の京都を過ぎてかなりの距離を走り、つい最近まで日本最大の商業都市だった大阪を通過していた。そこには優に二十五万人の活気に満ちた人々が居住している¹¹。その多くの名を持つ河^{しゅんせつ}¹²は容易に浚渫できるだろうし——私はそう思う——、そうすれば、落ちぶれた古き大阪は急速にかつての活気ある盛りの時期を取り戻すだろう。

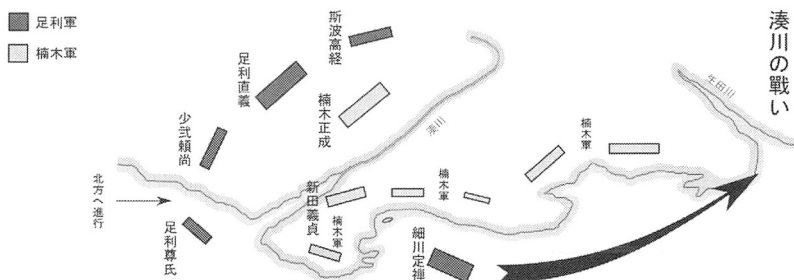
兵庫^{Hiogo}の隣にはもう一つの川が有り、背の高い松樹が覆いかぶさり、その水路は何世紀も前に人為的に変えられた。その今ではきれいに整えられた堤で、血みどろの戦い¹³が足利系の初代将軍 [尊氏] により 1336 年に闘われ、帝側は惨敗した。サトウ、ハウズ両氏が語るように¹⁴、築島^{Tsuki-jima}と呼ばれる

11 京都大阪間—約 50km。人口—1890 [明治 23] 年:476,392 人 [http://demography.blog.fc2.com/blog-entry-367.html]

12 瀬田川、宇治川、淀川と名前を変えて大阪湾に流れ込む。

「淀川」の称はふつうここからはじまる。淀の呼称は古来さまざまで、「淀川」の名が定着したのは江戸期からという。古くは「澱河」の記述がある。ほかには鵜河、北河、山崎川、近江川、取替川（とりかいがわ）、山代川（やましろがわ）などの名があった。因みに、瀬田川から数えた淀川の全長は約 75km であるが、三川合流から大阪湾までは約 37km となる。[http://agua.jpn.org/yodo/coveri.html]

13 湊川の戦い



14 Ernest Mason Satow, A. G. S. Hawes, *A Handbook for Travellers in Central & Northern Japan: Being a Guide to Tōkiō, Kiōto, Ōzaka, Hakodate, Nagasaki, and Other Cities; the Most Interesting Parts of the Main Island; Ascents of the Principal Mountains; Descriptions of Temples; and Historical Notes and Legends*. Murray, 1884.

邦訳 アーネスト・メイスン・サトウ、アルバート・ジョージ・シドニイ・ホース、庄司元男訳『明治日本旅行案内』上、中、下巻 平凡社、1996年（改訂第二版 1884 の訳）

人工島¹⁵がある。彼らがこの島について述べる言い伝えは、日本の宗教史において最も驚くべき出来事の一つであるので——元の話が真実と考えることだが——、以下に詳細に転記しよう。

15 以下のような「経が島」のことと考えられる — 経が島(きょうがしま)は、日宋貿易の拠点である大輪田泊(摂津国)に交易の拡大と風雨による波浪を避ける目的で築造された人工島。承安3年(1173年)に竣工する。その広さは『平家物語』に「一里三十六町」とあることから、37ヘクタールと推定されている。経ヶ島・経の島とも書く。後世、兵庫津にちなんで兵庫島とも称された。／塩樋山を切り崩した土で海を埋め立てた。工事の際、それが難航したために迷信を信じる貴族たちが海神の怒りを鎮めるために人身御供をすることになる。平清盛は何とか人柱を捧げずに埋め立てようと考えて、石の一つ一つに一切経を書いて埋め立てに使う(経石)。その後、事故などもなく無事に工事が終わったためにお経を広げたような扇の形をしたこの島を「経が島」と呼ぶようになった。しかし、一説には、人身御供をする事となり清盛の侍童・松王丸が入水して工事が終わったともいわれる。／ただし、実際の工事は清盛生存中には完成せず、清盛晩年の治承4年(1180年)は近隣諸国や山陽道・南海道に対して人夫を徴用する太政官符が出され、最終的な完成は平家政権滅亡後に工事の再開を許された東大寺の重源によって建久7年(1196年)になされたとされている。／『平家物語』では清盛自身、死後に円實という僧によって経が島に埋葬されたと記述されている。／現在では、度重なる地形変化等により場所が特定できずにいるが、おおよそ神戸市兵庫区の阪神高速3号神戸線以南・JR西日本和田岬線以東の地であるとみられており、松王丸の石塔が伝えられている兵庫区島上町の来迎寺(築島寺)周辺とする説もある。[<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%8C%E3%81%8C%E5%B3%B6>]



[経が島／築島寺 - Bing images]

松王の犠牲の話

「伝説に言うには、この島は二度構築され、その度毎に波に洗われて崩壊した。「阿倍泰氏^{Abe no Yasuuj} 16 という偉大な陰陽家が繰り返し損壊される原因を究明すべしとの要請を受けた。彼は卜占術^{ほくせん}により海の当該部分が海竜の棲処であり、そこが乾上がってしまうことに耐えられないでいる旨を明らかにするとともに竜を鎮めるために海中に三十人の「人柱」を供え、その上にサンスクリットの経典を刻んだ石を置く必要があるとした。これを行えば再度の障害を受けずに島の建設ができるだろうとというのだ。これをうけて清盛は生田の森の近くで街道を兵をもって封鎖し通行人から人柱となる犠牲者を得よう

16 面白いことに下田尻〔大阪府豊能郡能勢町〕には、前所述べた三松国春の命を救った松王丸の墓がある〔注 14 中図〕。福原遷都を企てた清盛は、外国貿易の拠点として大和田泊（とまり）に兵庫津設置の工事に取りかかる。阿波民部重能（しげよし）を奉行に畿内の賦役（ふえき）人夫5万人を動員し、塩打山を崩して海面30余町の港湾化を試みるが、奔流のような潮水に勝てず、土砂流出しどうすることもできぬ。陰陽（おんよう）博士たちを召して卜（ほく）させたところ、海底に竜神の住処（すみか）があるせいだ、怒りを鎮めるには30人の人柱と無数の石塊に一切（いっさい）経を刻んで捧（ささ）げねばならぬとの卦（け）がでたと報告を受ける。清盛は生田（神戸市）に関所を設け、通行者を順次人柱用に捕らえるが、30人目が国春であった。／これを知った能勢家包は、知り合いで清盛お気に入りの小姓松王丸に助命を懇願する。松王丸は香川城主太井民部の嫡男松王丸健児（こんでい）（児童）のことで、まだ17歳の若者だったが、自分が人柱になり竜神に訴えるから30人の人柱を釈放してほしいと申し出る。渋る清盛も殿の慈悲深さに世の人たちは感動し、賦役人夫も身を粉にして働くにちがいないと説得され承諾、松王丸は経石とともに石櫃（いしびつ）に入り海底に沈んでいった。さすがの竜神も松王丸の義挙に心打たれたのか工事は順調に進み、後に兵庫港と呼ばれる碇泊（ていはく）所が竣工する。／時は流れ百数十年もたったころ、京の陰陽博士阿倍泰氏（やすうじ）は、老後の静養にと下田尻の塩谷温泉（現存せず）を家族とともに訪れ、地元の人たちから松王丸の話聞く。感動した泰氏は同地に「松王健児供養塔」を設け、冥福を祈るとともにその功を永遠に伝えることにした。現在下田尻450番地に、形の崩れた五輪塔4基と自然石1基が残るが、その一つがそれと伝える。／阿倍泰氏は有名な陰陽学の大家安倍晴明の子孫だそうで、泰氏の発音が晴明の父保名（やすな）（俗説・実存せず）と似ているせいか両者が混同され、保名が妻の葛の葉（実は白狐・実存せず）を連れて塩谷温泉に湯治に来て大変気に入る、夫婦は当地を終焉の地と定めたとの伝説もある。[<https://www.nnn.co.jp/dainichi/rensai/naniwa/100227/20100227051.html>]

としたが、周辺住民が強い抵抗を示したために兵庫の人はそのまま通過させることにした。この事情から「彼を容赦してあげなさい。兵庫の人だから」という言い方がされるようになった。その後再び人員が徴集されたが、犠牲者の親類知己が大騒ぎして反対したために、清盛は彼らの海に備える儀式を延期した。そのような折、松王¹⁷という若者が現れて、自分が身代わりとして人柱にたてば竜も必ずやその意を汲んで私の命を三十人の代わりに受け入れるに違いないと言い、是非三十人の人々を解放するようにと懇願した。この高潔な申し入れは受理され、石の棺に入れられた松王が海中に供えられた。これにより竜は大いに満足し、築島はその後何の支障もなく完成に至ったという。この出来事は一一六一年に起こったと言われている。」¹⁸

疑いも無く、この語りに述べられている清盛は歴史上の人物だと私は思う。1286年——彼の死後1世紀——建立と伝えられる記念碑¹⁹が見られる。しかし、恐らく、現存する記念碑は単に今述べたことを現しているだけのように見える。

念頭に置かなければならないが、仏教は当時、広く日本全体で公認されていた。このことより遥か昔から、実在の人間を像に置き換えるという考えが採られていて、ここに記録されている行為は、古く、忘れられた儀式へのとつぜんの反転に極めて似たものだ。日本における道教の歴史はまだ書かれていないが、しかし、梵語のマントラや呪文の使用の言及からして、道教信者たち——仏教徒の異端とほとんど差異は無い——が、そこで何らかの影響力

17 松王小児 (Matsuwo Kotei) ——サトウによる注「* 松王丸 この若者は清盛の侍童とも、また讃岐の大井民部の一子ともいわれる。いずれにしても伝説上の出来事であり、築島工事の困難さを物語るものだ。」アーネスト・サトウ編著 庄司元男訳『明治日本旅行案内 下巻ルート編Ⅱ』平凡社 p. 90. 1996年

18 前掲書 pp.89-90. 庄司訳を転載。

19 清盛塚——石像十三重塔 所在地は神戸市兵庫区切戸町1。かつては現在の位置より西南11メートルにあり、清盛の墳墓とも云われていたが、大正12年に市電敷設の際、移転が計画され、調査の結果、墳墓でないことを確認され、現在の地に移転。(神戸市ホームページ)

を持っていたことは、無くもなかったのだろう。日本の、少なくとも、主要
 仏教教派の一つの信奉者たちは、道教信者とはほとんど変わらず、彼らは今で
 は、実際、実に哀れな連中^{creatures}に落ちぶれている。[人柱の数の] 30 という数は、
 多少なりとも注目すべきもので、仏教の象徴体系ではあまり見られるもの
 ではない。

[瀬戸] 内海の、ロマンティックで変化に富む美を真っ当に表現するのは
 私には難しく、これについては日本は当然、誇るべきものだ、従ってここで
 は絵画的表現はやめておく。十分近く^{じゅうぶん}を通過して明瞭に眺められた島々で
 地質学的な個性が見られるもの、あるいは特別な注記を要するものはほとん
 ど無い。また別の観点からも、景観は恐らく多少なりとも失望させるものだ
 ——私が言おうとしているのは、ここでも、日本全体についてと同じく、金
 色の光と、暖かく、半ば輝く影——これが故国の景色に極めて多くの微妙な
 美しさを与えるのだが——の、柔らかくとろけるような効果の欠如だ。私が
 やはり欲しいと思ったのは、明るい空にくっきり隈どられた雲の遷ろう影
 で、それらはスコットランドの西の島々で丘陵が薄い霧で半ば隠されてい
 なければ、ほとんど不断に見られるものだ。実に、率直に言わなければなら
 ないのだが、私はめったに日本の大気^{atmospheric}の効果の美に印象付けられたことは無
 く、9年間注意深く観察したのだが、セイロンと西スコットランド程も広く
 離れた所々でとても頻繁に目撃されたような日没に出会ったのはほんの5、
 6回、記憶にあるだけだ。日の出は多分、日本が格別に我が意を得たりと
 するものだろうが、しかし、自然のこの分野がより私の関心を惹かなかつた
 という理由で、言及するのは控えたい。

…「〈大地〉と〈大海〉が

お互いの腕の中で眠り」²⁰

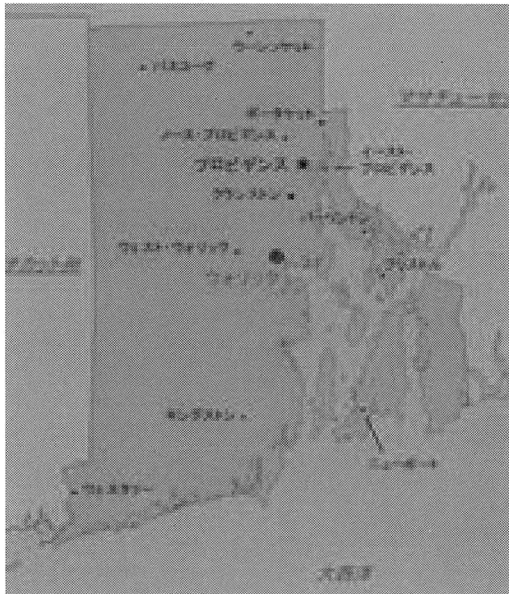
^{channel}水道の幅は極めて変化に富んでおり、大小の島々は極めて不規則に分散

20 Percy Bysshe Shelley, *Epipsychidion*. 「『エピサイキディオン』より」【対訳 シェ
 リー詩集——イギリス詩人選9】アルヴィ宮本なほ子 編、岩波文庫 p.217.

し、パノラマが自然に展開するにつれて不断の変化と動きの、夢中にさせる期待と喜ばせる驚きの、絶え間ない感覚がある。一つの感じが恐らく、実際的な心の周りに曖昧に漂っていても、それが各々の妖精のような景色の周りに関心の布を織りなしている——海は商用ジャンクを点綴し、大きめの木々の茂った豊饒の島々には、最も勤勉かつ、秩序があり、友好的な人々から成る新進の民族がたくさん住んでいる。そして、信じざるを得ないが、短期間に、この際立って航行に便利な内海——この日本のプロビデンス²¹はそれを豊かに恵まれている——は、あらゆる国の船団によって波立たされ、未だまだ白昼夢の存在にすぎないが、大きな町や港へと商業の平和の使者へと邁進していこう。

〔瀬戸〕内海の自然史については私は何も知らないが、それはとても興味深いものであることは確信が持てる。グリフィス氏が述べているが、或る

21 プロビデンス (Providence)——アメリカ合衆国ロードアイランド州の州都で、最大の都市である。島々に富む内海を持つ。



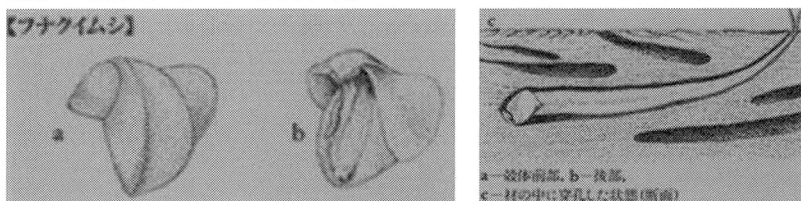
ロードアイランド州内のプロビデンスの位置：★印

「^{mollusc}軟体動物」がそれらの海域で活発に、木材に穴を穿ち、大いに破損するのに努めている。既に、東京湾のフナムシの同様の活動について言及したことがあるが、しかし、多くの破壊的な海棲の穴開け虫^{Ligiia} ^{boreers}22 がいて、政府の細心の注目を要するようだ。

午後は夕べへと暮れつつあったが、我々の大規模汽船は細心に操船され、狭くて曲がった航路の押し寄せる波間を進んだ。我々は下関——日本の地中海のジブラルタル海峡——の古い砲台^{battery} 23 の前にいた。

ここで1864年に、それ自体キリスト教的と言うべき、妥協の余地のない「^{resources of a civilization}文明の諸源泉」が、頑強な長門の守——彼の砦と船から合衆国汽船ペンブ

22 穿孔(せんこう)虫、フナクイムシ(船喰虫)——フナクイムシ科(Teredinidae)に属する二枚貝類の総称。ムシとついているが、実際は貝の仲間。英語では shipworm、ドイツ語では Schiffsbohrmuscheln あるいは Pfahlwürmer、フランス語では taret commun、台湾では船蛆蛤と呼ばれる。[下図右]



23 前田砲台



フェリーチェ・ベアト撮影「前田砲台を占領した英国軍」

SS Pembroke

24 下関戦争——幕末に長州藩と、イギリス・フランス・オランダ・アメリカの列強四国との間に起きた、文久3年(1863年)と同4年(1864年)の前後二回にわたる攘夷思想に基づく武力衝突事件。…文久3年(1863年)3月、將軍徳川家茂が上洛。朝廷は従来通りの政務委任とともに攘夷の沙汰を申しつけ、幕府はやむなく5月10日をもって攘夷を実行することを奏上し、…攘夷期日の5月10日、長州藩の見張りが田ノ浦沖に停

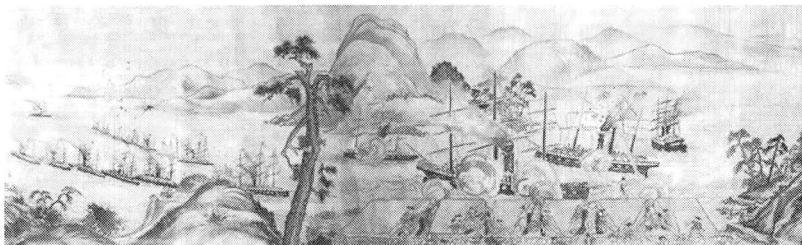
ロークとその他の船に砲火を浴びせた——に銃砲が向けられた。最後に、百丁の英国の銃、および仏・蘭・米のもう百丁程の銃が²⁴日本人に大量の血を流させ、三百万ドルの補償金を引き出し²⁵、これは報復参加の国々で平等

泊するアメリカ商船ペンブローク号 (Pembroke) [上図右] を発見。総奉行の毛利元周 (長府藩主) は躊躇するが、久坂玄瑞ら強硬派が攻撃を主張し決行と決まった。翌日午前2時頃、海岸砲台と庚申丸、癸亥丸が砲撃を行い、攻撃を予期していなかったペンブローク号は周防灘へ逃走した。外国船を打ち払ったことで長州藩の意気は大いに上がり、朝廷からもさっそく褒勅の沙汰があった。

アメリカ・フランス軍艦による報復——[1864年] 6月1日、[米艦] ワイオミング号は下関海峡に入った。…ワイオミング号は報復の戦果をあげたとして海峡を瀬戸内海へ出て横浜へ帰還した。6月5日、フランス東洋艦隊のバンジャマン・ジョレス准将率いるセミラミス号とタンクレード号が報復攻撃のため海峡に入った。…長州藩兵は抵抗するが敵わず、フランス兵は民家を焼き払い、砲を破壊した。長州藩は救援の部隊を送るが軍艦からの砲撃に阻まれ、その間に陸戦隊は撤収し、フランス艦隊も横浜へ帰還した。／アメリカ・フランス艦隊の攻撃によって長州藩は手痛い敗北を蒙り、欧米の軍事力の手強さを思い知らされた。…7月27日、28日にキューパー中将 (イギリス) を総司令官とする四国連合艦隊は横浜を出港した。艦隊は17隻で、イギリス軍艦9隻、フランス軍艦3隻、オランダ軍艦4隻、アメリカ仮装軍艦1隻からなり、総員約5000の兵力 [11] であった。また横浜にはイギリス軍艦1隻、アメリカ軍艦1隻と香港から移駐してきた陸軍分遣隊1350人が待機していた。[<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8B%E9%96%A2%E6%88%A6%E4%BA%89>]

25 下関戦争の損害——連合国：死傷者 62 人 (1864 年)；長州藩：死傷者 47 人 (1864 年)、軍艦 2 隻沈没・1 隻大破、大砲 62 門鹵獲

幕府は賠償金 44 万ドルを攘夷期日の前日の 5 月 9 日にイギリスに支払うと共に、各国公使に対して文書にて開港場の閉鎖と外国人の退去を文書で通告し、攘夷実行の体裁をとった。しかし、同時に口頭で閉鎖実行の意志がないことも伝え、9 日後には文書にて閉鎖撤回を通達した。

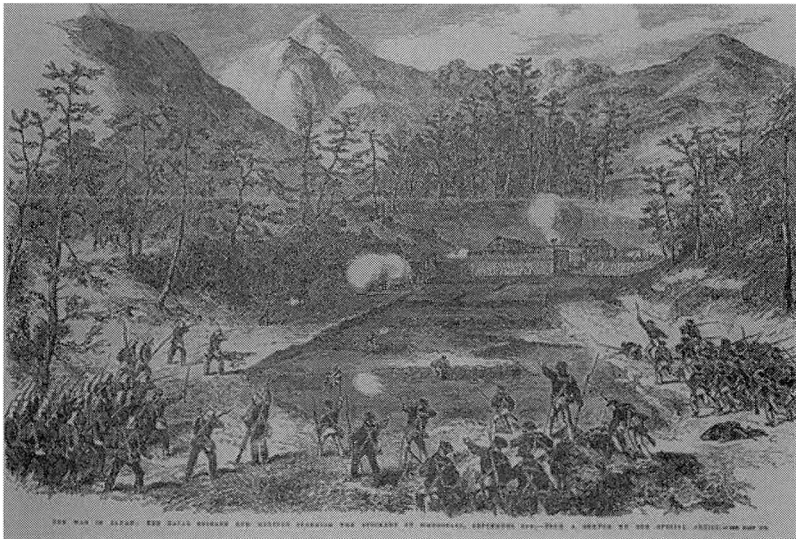


『馬関戦争圖』(部分) 藤島常興 筆、下関市市立長府博物館 収蔵 [下関戦争 - Wikipedia]

に分配された。アメリカは幾らかの論議の後、利子無しで、実際にかかった僅かばかりの出費を差し引いて自分の持ち分を日本に返却した。それゆえ、望まれるのは英国が——まだ破産の危機に瀕していない——、その金額を（実際には決して支払われるとは期待されていなかった）喜んで返却することだ。追求された政策は、緊急の危機においては、それにより事態がよくなるという確かな影響がなかったかもしれないが、一連の分かり易い外交実務を行使する。しかし、爾来、あの古傷——開いたままになっていて、日本の外では認識する者もほとんどいない程にいらつかせる傷口——をいま癒せば、我々が失うものは何も無く、得るものばかりなのだ。

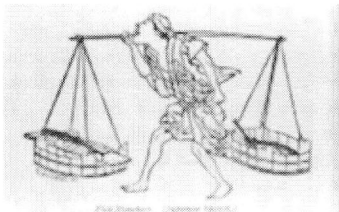
我々は速やかに荒れる外海に出、その逆巻く潮の波から、^{youngish moon} 新月の青白い光の中に目にしたこともないような怪奇な形に削られた黒い岩が立ち上がっていた。

次の朝、突然の礼砲^{salute}一発に目覚めると、長崎の湖のようなすばらしい湾



The British naval brigade and marines storm the stockade at Shimonoseki, *The Illustrated London News*, December 1864. [NavalBrigade&MarinesatShimonoseki - Shimonoseki campaign - Wikipedia]

に、乗員の整備された大きな英国の鉄甲船の脇に投錨しているのに気がついた。小ボートの船隊の中から、かなり安全で心地良さそうな一隻を選び、上陸地点に向かったが、そこにいつものようにこやかな人力車夫の列がびよこんとお辞儀をしながら列を作っているのが目に入ったが——、われわれに乗ってもらうための誘いのお辞儀のようだ——^{fish hawkers}魚行商人の魚鱗だらけの群れ、ありとあらゆる^{flag}国籍の陽気な船員たち、一人二人の^{Loochooan}琉球人²⁷、支那人たちの群がり、数人の沈着なオランダ人。湾内には今や壮麗な乾ドック^{graving dock}²⁸があり、全体として長崎は、あたかも廃れかけているようには私には見えなかった。



[魚行商人]

26 ここには Faulds のちょっとしたヒネリがあるようだ。因みに、——
あひる【家鴨・鶯】人力車的一种。*東京開化繁昌誌〔一八七四頃〕〈高見沢茂〉二・腕車「人智進歩し、其巧を逞し、其製を換ふ、三輪と云ひ、家鴨（アヒル）と云ひ、双乗（ににんのり）と云ひ、何と曰ひ」小学館『日本国語大辞典』第二版 [http://club.ap.teacup.com/hagi/1014.html]

27 Ryukyuan, Okinawan, Lewchewan 等とも綴る。

28 グラバーと薩摩藩によって日本初の洋式近代的ドック「小菅修船場」も完成しました。そして1879（明治12）年には新政府の直営で「立神（第一）ドック」が完成し、修理だけでなく、新鉄船の建造もできるようになりました。[産業革命遺産の歴史|世界遺産|長崎市公式観光サイト「あつとながさき」(at-nagasaki.jp) 図②]



現存する日本最古のスリップドック「小菅修船場跡」1869年、薩摩藩とグラバーによって建設された船舶修理施設です。日本で初めて蒸気機関を動力とする曳揚げ装置が導入されました。船架の形状から「ソロバンドック」の名で親しまれています。また曳揚げ小屋は現存する日本最古の本格的な煉瓦造建築です。

夕方、汽船が出港し、右舷に見える急峻な森の茂る崖を通過したが、その縁にはかつてローマカトリックのキリスト教徒たちが立っていた——恐らく拷問で（だが、恐れからでなく）青ざめ、崖の上から投げ落とされ、海の深みに失われるのを待ちつつ——もしも十字架を踏みつけ信仰を否認しない限りは²⁹。

異教徒には想像もつかないのだが、彼らのうちかなり多くの者がこの恐ろしい信仰を試す試練に縮み上がり、結果、絶対に過ちを犯すことのない歴史家たちが、迫害により教会を消し去ったと一度は書き記すことになっ

29



30 アフリカーナー(アフリカーンス語: Afrikaner)——アフリカ南部に居住する白人のうち、ケープ植民地を形成したオランダ系移民を主体に、フランスのユグノー、ドイツ系プロテスタント教徒など、宗教的自由を求めてヨーロッパからアフリカに入植した人々が合流して形成された民族集団である。現在の南アフリカ共和国やナミビアに多く住んでいる。／言語はオランダ語を基礎にしてフランス語、マレー語、現地の言語等を融合して形成されたゲルマン系言語であるアフリカーンス語を母語とする。かつてはブール人(Boer)と呼ばれた(「ブール」[Boer]とはオランダ語およびアフリカーンス語で農民の意。「Boer」の英語読みに基づいてボーア人とも表記される)。主な宗教は改革派(カルヴァン派)に属するオランダ改革派教会である。[<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%95%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%83%BC%E3%83%8A%E3%83%BC>]

た。しかし、事実は違っていたのであり、何千という数の者が、当時、殉教者の栄冠を得た者たちの血縁の子孫にしてキリスト教徒であると申し出たのである。オランダのカルヴァン派は、ボア人³⁰たちがアフリカで証示したようなあの喜ばしくもキリスト教的な精神の幾らかを常に持っていたように思われる。彼らは、いと多数のキリスト教徒が憐れむべき死に柔軟に立ち向かった永久に聖なる場所を、機微に富んだ^{Papenberg}パーペンベルク [ローマ法王の山]³¹と呼んだ。かくて名は生き続ける——歴史家をあざ笑う訳ではないが。

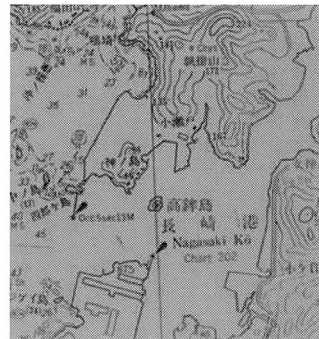
13 コラム

第13章はフォールズの横浜から神戸－瀬戸内海を経て長崎までの旅である。

1. フォールズとオランダ改革派

この章の不思議な終わり方には説明があるだろう。フォールズがかくて名は残ると言った the Papenberg は禁教時代の17世紀の切支丹殉教地として知られている長崎市神ノ島町にある無人の高鉾島のことである。そもそもパーペンベルクという呼び方は江戸時代出島に出入りしていた

31 Papenberg という地名は高鉾島にオランダ人が付けた名だが、これについては後掲「コラム13」を参照。



オランダ人の呼び方で、日本人は伴天連山^{バテレン}とか伴天連島^{バテレン}と呼んでいた。それで本章では唐突な感じがするが出島で日蘭貿易を許されていたオランダ人が登場するのである。出島のオランダ人たちは禁教時代に神父たちが島の断崖から突き落とされたという言い伝えのある殉教の島をパーバ（教皇）の丘^{ベルグ}（切支丹山）と呼んだ。

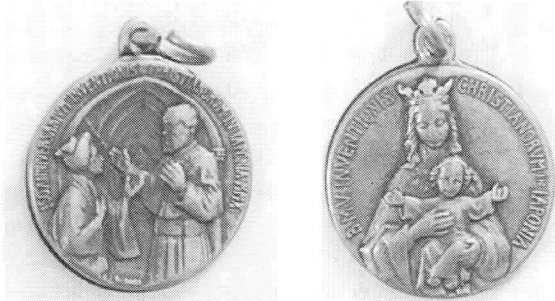
それでフォールズは、カルヴァン派であるオランダ人たちは禁教の日本にあって、カトリックとプロテスタントの違いはあっても、またキリストの名を出すことはなくとも、心の底のキリスト教精神を忘れることはなかった。

フォールズは知る由もないが、この島には明治30年に神の島天主堂（神の島教会）が献堂され今日に至っている。まさに名は今に残るである。

ここにポーア人が出てくるのも唐突に感じるが、彼が来日して7年目になる1880年12月16日、オランダ系移民の子孫であるポーア人は大英帝国に宣戦布告、ポーア人に惨敗した英国は、結局1881年3月23日イギリスはトランスヴァール共和国の独立を認め終結した。フォールズたち英国人にとっては信じがたい大英帝国側の敗退であり、世界の植民地やその他の国に散らばった英国人たちの間では沸騰した話題なのである。実はフォールズのこの瀬戸内海-長崎旅行の時期は明記されていないが、丁度この頃の旅であった可能性が高い。ポーア人も祖先をオランダに持ち、オランダ改革派を信仰する人々である。フォールズの信仰する長老派、オランダの改革派、フランスのユグノーはいずれもカルヴァン主義である。フォールズは宗教を衣の下に、キリスト教の成果たる文明の所産を日本に導入した日蘭貿易に携わったオランダ人の根底足るキリスト教精神をその島の呼び名に垣間見たのであろう。

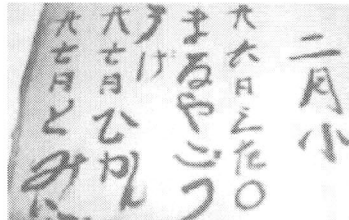
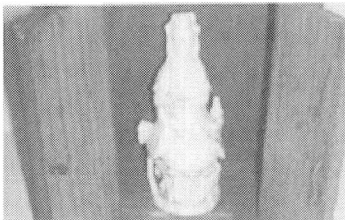
2. 「信徒発見」

歴史家たちから弾圧により日本のキリスト教は壊滅しもう信者はいないと思われていた。



信者発見 150 年記念 メダユ [ロ・ド神父記念館] 長崎市

1858 年の日米修好通商条約により西欧との貿易に道が開かれると、1864 年外国人のための教会堂が献堂され、大浦天主堂（日本二十六聖殉教者聖堂）と命名されて、2 月に公開されると翌月 1865 年 3 月 17 日に 15 人の浦上村の日本人が密かにフランス人ベルナル・タデー・ブティジャン神父のもとを訪れた。そのうちのひとりイザベリナ杉本ゆりという女性が神父に『サンタ・マリアさまの像はどこ』と小さな声で言い、神父が祭壇に案内すると村人たちは信仰告白をした。神父は直にこれをローマに報告した。「宗教史上の奇跡」、「東洋の奇跡」などと言わ



[左] 信仰偽装のためのマリア観音 [中国や平戸で焼かれた白磁] [右] お帳 [外海・五島の元帳切支丹の 1634 年の太陰暦による教会歴] 五島・堂崎天主堂キリシタン資料館（展示資料パンフレットより）

れる 1865 年の「信徒発見」の報であった。潜伏信徒たちは 250 年の沈黙を破ってその信仰を明かしたのであった。彼らが潜伏切支丹と言われるのはその信仰を隠し、信仰を伝え続けたからである。五島列島のある島では、表面上は神道あるいは仏教として振る舞い、日本式葬式が終わった後で、信者が残りオラショを唱え改めてキリスト教の式を執り行ったという。浦上キリシタンは近隣のキリシタンを新たに発見神父に教えたという。観音像の背に十字を刻んだマリア観音、密かに隠したマリア像などその潜伏の形は一様ではないが、切支丹の子孫たちは長い年月潜伏キリシタン、元帳（かくれ）キリシタン★として信仰を維持し続けた。信者たちは檜山 [キリシタンのいた赤岳のふもとにある地区] で「沖に見えるはバーバの船よ、丸にヤの字の帆が、見える」と教皇が派遣してくれる宣教師を待ち望み謳ったという。2015 年 3 月 17 日大浦天主堂では「信徒発見 150 年」の記念ミサが行われた。（参考：『カトリック教報』2015（平成 27）年 5 月 1 日号）歴史家たちの嬉しい誤謬で信徒は途絶えることなく、250 から 260 年間の苛酷な弾圧下の日本で折り継ぎ、バーバ（教皇）の山、バーバの船は今に受け継がれてきた。

3. フォールズの通訳をした日本人クリスチャンは井深棍之介か？

【クララの明治日記】★★1879（明治 12）年 7 月 7 日（月）に、ホイットニー一家の夜の祈祷会でのことだが、「今夜の会はとてもよかった。ビンガム夫人 [ジョン・ビンガム駐日米国公使ビンガム（在任期間 1873-1885）の夫人] がみえ、勝 [海舟] 氏までいらっしゃった。フレーザー氏 [ビンガム公使の娘婿] は短い良い話をしてくださり、イズブキ氏が身振りや強調の仕方にいたるまで実に正確に、逐語訳して下さった。彼はフォールズ博士の通訳としてかなり前から講演などに出ており、まったく天才だ。それからデイクソンさんが話をし、また通訳が

いた。歌は古今讚美歌集を使った。」(一又民子訳、下線、[] 内筆者)

ここでクララは、フォールズの通訳をしていたイズブキ (Izubuki) 氏について記している。前にも記したがフォールズには医師の弟子兼通訳の櫛部漸がいた。明治13年の教会文書の櫛部の住所は京橋区桶町31番となっている。明治20年に彼が亡くなった時には京橋区桶町32番地自宅となっており、その地で開院していたとされている。櫛部の独立の正確な時期は『新築教会六十年史』にも記載がないが、明治11、12年頃には独立していたと考えられる。

その後講演の通訳を務めたのが井深ではないかと考えられるのは、この時期横浜・東京公会(一時フォールズの診療所の一室で日曜礼拝をしていた)の関係者及び、フォールズの身辺にいた人物でイズブキと間違えうような名前で、かつクララが「まったく天才だ」というほどの英語力のある者は外に考えられないからである。

フォールズと井深の接点は、井深が修文館・ブラウン (Samuel Robbins Brown) 塾出身かつ横浜バンドのメンバーであり、1877(明治10)年築地居留地6番に開校された東京一致神学校第一期生であることである。フォールズの築地病院は東京一致神学校の一部として使用されていたこと、フォールズ自身が同校で講義をしていたことから、フォールズは井深の英語力を知って頼んだ可能性が高い。井深の英語力に関しては、明治6年8月6日に父に宛てた手紙から明治6年7月に行われた大試験の結果、抜群の生徒に権令より洋籍が与えられたが、井深も該当し、洋籍一冊を与えられたが、それには「明治六年七月之試験ニ依第一級之第一等タル井深梶之介ニ之ヲ給與す」と記されていたと報告している。

明治12年に井深梶之助は、教師補の任職を受け、12月24日に按手札を受け日本基督一致教会の牧師となっている。ホイットニー家を訪ねたのはこの数か月前のことである。

日本基督一致教会は米国長老教会、アメリカ・オランダ改革派教会、スコットランド一致長老教会のカルヴァン主義に基づく三つの教派の協働による伝道組織であり、フォールズが再三カルヴァン派について言及していることを思い出してほしい。

ただこれはあくまで推察であり、井深がフォールズの通訳を務めていたという確証はない。この件に関してのご教示を戴ければ幸いである。

★信徒たちは「かくれキリシタン」という言葉を好まず、「元帳」とか「はなれ」と呼んでいる。1634年の太陽暦による教会歴「お帳」が残されており、潜伏キリシタンはこの日繰りを元に宗教行事を繰り出した。代々、帳方（信徒組織の代表）に受け継がれ信仰継承の原動力となった。（五島・堂崎天主堂キリシタン資料館）

堂崎の信徒代表がプチジャン司教に会ったのは浦上の信徒発見の2年後1867（慶応3）年のことである。

★★クララ・ホイットニー著 一又民子訳、講談社1976。クララの明治8年8月3日から明治20年4月17日までの日本滞在期間の日記。クララは、明治19年に勝海舟の3男 梶梅太郎（母、梶くま）と結婚した勝家の嫁である。

（ながお・しろう 名誉教授）

（たかはた・みよこ 英文学史研究家）